

学校生活の側面と私の人生

旭野高等学校2年
山田 菜々美

私はこの作文を書くにあたって、まず「健全」という言葉の意味を調べました。すると「心身ともにすこやかで異常のないこと。」という意味でした。私は頭痛持ちで、精神的に前向きになれなかったときもあり、とても「健全」であるとは言えませんが、こんな私にも学校生活に救われたことがあります。

一つ目に、やはり友達の存在です。学校に行けば友達に会えること。これが私にとって大きな救いでした。体調不良で家にいるときに、友達に会いたいという理由で学校に行きたい、と泣いたこともあるくらいです。学校をお休みしたときに、授業内容を教えてくれたり、ノートを写させてくれたりしたのも友達です。自分の存在理由に疑問を持ったとき、友達が私を必要としてくれたおかげで、生きる勇気を持つことができました。心が辛いと泣き叫び、下を向いていた私を友達が支えてくれました。誰にも言えなかった秘密を友達が聞いてくれました。今では、友達が必要としてくれることが、自分を「私」とするための大切なことです。

二つ目に、部活動です。私は現在、女子バレーボール部のマネージャーとして日々活動しています。マネージャーならではなかのかもしれないかもしれませんが、人を支えることが存在意義となり、辛いことがあっても乗り越えていくことができている。精神的な理由で学校に行きたくない、と思ったときに、行こう、という思いになることができたのは部活動の存在があったからです。私が行かないことで他の人に迷惑がかかる、という意識が学校に行く気を起こさせました。

三つ目に、学習です。学習というのは、単なる授業などの勉強という意味だけではなく、生活や人との付き合い方の学習という意味なども含めた大きな意味での学習です。私が持っている知識と、他の人が持っている知

識を互いに交換し、学び合うことを通して、新しい知識を得たり、知識を披露したりすることが、自信に繋がっていきました。職場体験や合唱コンクールなどの特別な活動によって、人との心地良い距離感や関わり方、さらには話し方や話題などといったコミュニケーションにおいて大切なことについて学ぶことができました。

最後に、情緒です。情緒という学校生活に救われた、と言葉にすると変ですが、私は確かに救われました。それは例えば、喜怒哀楽や誇らしさなどといったもののことです。学校での経験がなければ豊かな情緒に触れることも、それを得ることもできなかったことでしょう。好きや嫌いも考えることはなかったと思います。

きっと自覚していないだけで、本当はもっと多くの学校生活の側面に救われているはずです。私はそれを自覚しようとしても、自覚できないでしょう。なぜなら、今、幸せだからです。私は学校生活によって、幸せなときは辛かった過去を自覚し、辛いときは幸せだった過去を自覚するという考え方を得ました。今の幸せは決して普遍的なものではなく、自分だけの特殊なもの、という意識を大切にしていきたいです。

自己肯定感が低い私が居場所の一つだ、と思えたのが学校です。学校の側面である友達、部活動、学習、情緒などから得られたものは本当に大切なものです。私にとって学校があることは当たり前ですが、その当たり前から当たり前でない大切なものを得ることができました。辛いと思っていた時期、とても「健全」とは言えない時期があったことが現在の私に幸せを感じさせています。辛いと思うから幸せがある。反対に幸せがあるから辛いと思う。この考え方も得ることができた学校生活にとっても感謝しています。

もし、過去の私と同じように心の不調で学校に行くことができない人がいたら、私は
「幸せと辛いことは表裏一体。」

「周囲は思っているよりも無関心で、温かい。」と、この二つを伝えたいです。理由は、私がこれを自覚したことで心が楽になったからです。きっと考え方一つで人生は変わるのでしょう。私個人の意見ばかりですが、自分の言葉で誰か一人でもその心を楽にすることができたらいいな、と思います。